

Title	著訳者紹介
Author(s)	聖学院大学総合研究所
Citation	聖学院大学総合研究所紀要, No.51, 2012.1 : 3-7
URL	http://serve.seigakuin-univ.ac.jp/reps/modules/xoonips/detail.php?item_id=4207
Rights	



聖学院学術情報発信システム : SERVE

SEigakuin Repository and academic archiVE

〔著 訳 者 紹 介〕

(掲載順)

阿久戸 光晴 あくど・みつはる

1951年生まれ。一橋大学社会学部・法学部卒。住友化学工業株式会社勤務を経て、東京神学大学博士課程前期修了後、米国エモリー大学神学部大学院ほか。その傍ら聖学院大学及び聖学院アトランタ国際学校開設業務を担当。その後聖学院大学宗教研主任兼助教授を経て、現在、学校法人聖学院理事長・聖学院大学学長兼教授。その他日本聖書協会新翻訳事業検討委員、荒川区不正防止委員会委員長など。

〔著書〕『近代デモクラシー思想の根源』、『説教集 新しき生』、『ヴェーバー・トレルチ・イエリネック』(共著)、『神を仰ぎ人に仕う』(共著)、『キリスト教学校の形成とチャレンジ』(共著)ほか、著書・論文多数。

阪口正二郎 さかぐち・しょうじろう

1960年兵庫県西宮市生まれ。1989年3月、早稲田大学大学院法学研究科単位取得退学。東京大学社会科学研究所助手、助教授、一橋大学大学院法学研究科助教授を経て、2001年4月より一橋大学大学院法学研究科教授。専攻は、憲法学、比較憲法学。主要な著作として、『立憲主義と民主主義』(日本評論社、2001年)、『ケースブック憲法』(弘文堂、2004年)、『改憲は必要か』(岩波新書、2004年)、『神の法vs.人の法』(日本評論社、2007年)、『岩波講座憲法5 グローバル化と憲法』(岩波書店、2007年)、『自由への問い3 公共性』などがある。

古屋 安雄 ふるや・やすお

1926年上海に生まれる。自由学園、1951年日本神学専門学校(現東京神学大学)卒業。サンフランシスコ、プリンストン、チュービンゲンに留学。プリンストン神学大学より神学博士(Th. D.)。組織神学・宗教学専攻。1959年以来、国際基督教大学教会牧師、同大学宗務部長を務めた。その間、プリンストン神学大学、アテネオ・デ・マニラ大学客員教授、東京大学、東京女子大学、東京神学大学の講師を歴任。1990年より聖学院大学大学院アメリカ・ヨーロッパ文化学研究科教授。国際基督教大学名誉教授。

〔著書〕『キリスト教国アメリカ』、『キリスト教の現代的展開』、『プロテスタント病と現代』、『激動するアメリカ教会』、『現代キリスト教と将来』、『宗教の神学』、『日本の神学』(共著)、『日本神学史』(編著)、『大学の神学』、『日本の将来とキリスト教』など。

洛 雲 海 ナク・ウンヘ

1964年東京生まれ。東京神学大学大学院修士課程修了。延世大学校韓国語学堂卒。韓国・長老会神学大学校大学院博士課程修了。神学博士（長老会神学大学校）。現在、長老会神学大学校外国人専任教授（組織神学）。ソウル・セムナン教会（大韓イエス教長老会統合）協力牧師。〔論文・訳書〕「일본교회에서 “디아코니아” 신학과 실천 (日本の教会における「ディアコニア」神学とその実践)」(제6회 소망신학포럼, 2007年), 「일제시대에 있어서 일본의 지적 상황의 한 단면—니시다 철학과 그리스도교에 관련하여—「日帝時代における日本の知的状況の一断面—西田哲学とキリスト教に関連して」(『기독교사상과 문화』, 2008年), 『キリスト者必須の正しい理解』(訳)ほか, 論文翻訳多数。

高 萬 松 こう・まんそん

1953年生まれ。東京神学大学大学院博士前期課程修了。聖学院大学大学院アメリカ・ヨーロッパ文化学研究科博士後期課程修了。博士（学術）。聖学院大学総合研究所助教。〔著書〕『포사이스의 신정론 (フォーサイスの神義論)』(基督教連合新聞社, ソウル, 2007年)。〔訳書〕『바른기도와그영매 (正しい祈りとその実り)』(大韓基督教出版社, ソウル, 1999年, P. T. Forsyth, *The Soul of Prayer*の韓国語翻訳)。『정교도』(基督教連合新聞社, ソウル, 2010年, 大木英夫『ピューリタン』の韓国語翻訳)。〔論文〕「P・T・フォーサイスにおける戦争倫理」(古屋英雄他編『歴史と神学—大木英夫教授喜寿記念献呈論文集 下巻』聖学院大学出版会, 2006年), 「P・T・フォーサイスとピューリタニズム」(日本ピューリタニズム学会『ピューリタニズム研究』2, 2008年), 「初期韓国教会とピューリタニズム」(日本ピューリタニズム学会『ピューリタニズム研究』4, 2010年)。

宮 本 悟 みやもと・さとる

1970年生まれ。同志社大学法学部卒。ソウル大学政治学科修士課程修了〔政治学修士号〕。神戸大学法学研究科博士後期課程修了〔博士号（政治学）〕。日本国際問題研究所研究員を経て、現在、聖学院大学総合研究所准教授。専攻は政軍関係論, 安全保障論, 朝鮮半島研究。〔共著・論文〕DPRK Troop Dispatches and Military Support in the Middle East: Change from Military Support to Arms Trade in the 1970s, *EAST ASIA*, Volume 27, Number 4 (November 2010) pp.345–359, 「なぜ延坪島に朝鮮人民軍は砲撃したのか? —アリソンの3つのモデルによる分析の試み」『国際比較政治研究』第20号 (2011年3月) pp.90–100, 「日本の対北援助と制裁 (일본의 대북원조와 제재)」『日本空間』第9集 (2011年5月) pp. 154–193など。

平山 正実 ひらやま・まさみ

1938年生まれ。横浜市立大学医学部卒。自治医科大学助教授（精神医学）、東洋英和女学院大学大学院教授（死生学、精神医学）を経て、聖学院大学総合研究所・大学院（人間福祉学科）教授。北千住旭クリニック精神科医。医学博士，精神保健指定医。

〔著書〕『死別の悲しみに寄り添う』（編著，聖学院大学出版会），『死別の悲しみから立ち直るために』（編著，同），『見捨てられ体験者のケアと倫理——真実と愛を求めて』（勉誠出版），『人生の危機における人間像——危機からの創造をめざして』（聖学院大学出版会），『はじまりの死生学——「ある」ことと「気づく」こと』（春秋社），『心の病気の治療がわかる本』（法研），『癒やしを求める魂の渇き』（共著，聖学院大学出版会），『精神医学の見た聖書の人間像——キリスト教と精神科臨床』（教文館）ほか。

森川 剛光 もりかわ・たけみつ

1969年生まれ。慶應義塾大学経済学研究科博士課程単位取得退学。1997年よりドイツ学術交流会（DAAD）奨学生としてカッセル大学留学。2001年同大学で経済科学・社会科学博士号（Dr.rer.pol）取得。2011年ルツェルン大学で教授資格（社会学）取得。カッセル大学非常勤講師（社会学・哲学：1998～2001，2005～2008年），ハイデルベルク大学非常勤講師（日本学：2002～2003年），日本学術振興会特別研究員（2001～2004年），カッセル大学・文化研究のための学際研究グループ研究助手（2005～2007年）を経て，現在，ルツェルン大学私講師（Privatdozent）専任研究員兼非常勤講師，聖学院大学総合研究所特別研究員。専攻は社会学理論，文化社会学，社会思想史。

〔著書〕Handeln, Welt und Wissenschaft. Zur Logik, Erkenntniskritik und Wissenschaftstheorie für Kulturwissenschaften bei Friedrich Götter und Max Weber, Wiesbaden 2001; Wissen und Konstruktion des Anderen. Gesammelte Aufsätze zur Philosophie und Soziologie, Kassel 2008.

〔編書〕Japanische Intellektuelle im Spannungsfeld von Okzidentalismus und Orientalismus, Kassel 2008.

〔論文〕「理念型の再解釈」『三田学会雑誌』93巻1号（2000年4月），Platonic Bias in der Sozialtheorie. Über den Begriff des Handelns bei Hannah Arendt und eine philosophische Kritik an der soziologischen Praxistheorie, in: Archiv für Rechts- und Sozialphilosophie, Bd.96/ 2010, Heft4.ほか。

〔訳書〕A・ナセヒ／G・ノルマン『ブルデューとルーマン——理論比較の試み』新泉社，2006年。ヨハネス・ヴァイス「ニーチェ，ヴェーバー，ハイデガー」『未来』2005年7，8月号ほか。

深井 智朗 ふかい・ともあき

1964年生まれ。アウクスブルク大学哲学・社会学部博士課程修了。Dr.Phil. (アウクスブルク大学), 博士(文学)京都大学。現在, 聖学院大学総合研究所教授。

〔著書〕 *Paradox und Prolepsis*, Marburg 1996, 1999 (2.Aufl.), 『超越と認識』(創文社), 『十九世紀のドイツ・プロテスタンティズム——ヴィルヘルム帝政期における神学の社会的機能についての研究』(教文館), 『思想としての編集者——現代ドイツ・プロテスタンティズムと出版史』(新教出版社) など。

津田 謙治 つだ・けんじ

1976年群馬県生まれ。2005年京都大学大学院文学研究科キリスト教学専修博士課程修了。文学博士(京都大学)。聖学院大学欧米文化学科教育補佐, 明治学院大学・静岡県立大学非常勤講師を経て, 現在, 西南学院大学国際文化学部講師。

〔訳書〕 J.N.D. ケリー 『初期キリスト教教理史』上・下 (一麦出版社, 2010年), A. メレティス 『カッパドキア教父』(新教出版社, 2011年)

〔論文〕 「マルキオン思想の多元論的構造——プトレマイオス及びヌメニオスの思想との比較において」(博士論文, 2008年), 「場 (locus) と神の唯一性——反異端教父エイレナイオスの修辞学及び哲学的反駁」(『日本の神学』47, 2008年), 「古代教父思想における『時間』概念——エイレナイオス『異端反駁』の議論を中心として」(『基督教学研究』28, 2008年) ほか。

小柳 敦史 こやなぎ・あつし

1981年生まれ。2007年3月, 京都大学大学院文学研究科修士課程修了。2011年3月, 京都大学大学院文学研究科博士後期課程指導認定退学。現在, 日本学術振興会特別研究員PD。

〔論文〕 「E・トレルチの思想展開における「本質」概念の位置づけ」(『基督教学研究』29号, 京都大学基督教学会, 2009年), 「未来へと向かうための歴史的思考——エルンスト・トレルチの構成の理念」(『日本の神学』49号, 日本基督教学会, 2010年), 「大学人は生を捉えられるか——トレルチの目に映った「学問における革命」——」(『研究報告論集 Credo Ut Intelligam』第1号, 青山学院大学総合研究所, 2011年) ほか。

〔翻訳〕 カール・ハイント・ラッチョウ 『「生きるに値しない生」は抹殺可能か?』(『福音と世界』, 2009年5月号)。

メイスみよ子 Miyoko Maass

1956年生まれ。カリフォルニア州立大学人文学部英語学科卒。北アイオア大学大学院人文学部TESOL修士号取得。神田外語学院英語スーパーバイザー、その他大学非常勤講師を経て、現在聖学院大学基礎総合教育部特任講師。

〔**共著**〕『Power Steps to TOEIC Test Success』川口淑子、田口悦男、Meredith Hinton（開文社、2008年）、『American Spirits in Movies』石塚美佳、小林みぐみ、長崎睦子（成美堂、2009年）

〔**論文**〕「Perspectives on Using the Internet in a College English Class」『聖学院大学論叢』第1号（2008年2月）、「Developing Teaching Material for Classroom Interaction in a Movie-Based Course」『聖学院大学論叢』第3号（2006年3月）、「Narrowing the Gap: Teacher and Students' Perception Differences」『浦和論叢』第22号（1999年6月）ほか。